

きんもくせい

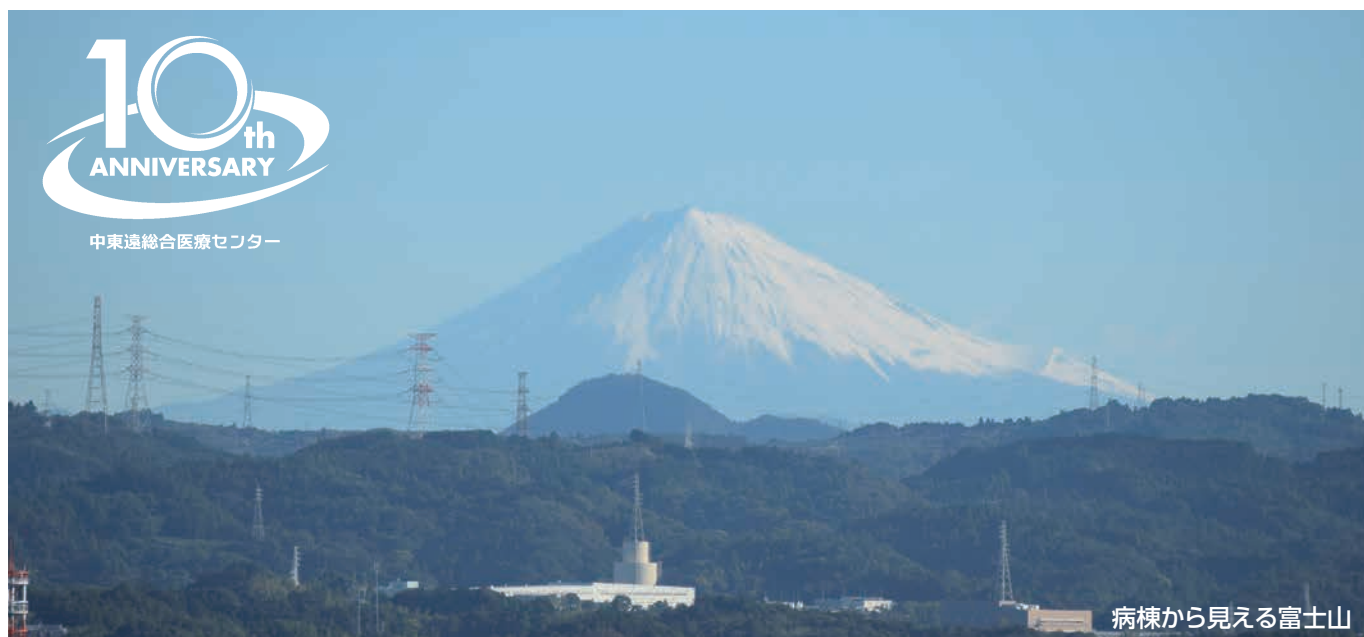
病院だより

vol.127

令和6年
1月号

10th
ANNIVERSARY

中東遠総合医療センター



病棟から見える富士山



新年のご挨拶

新年明けまして、おめでとうございます。

皆さまにおかれましては、健やかに初春をお迎えのこととお慶び申し上げます。また、日頃から当院の運営に対し多大なるご理解とご協力を賜り、心からお礼申し上げます。

当院は昨年5月に開院10周年を迎え、9月には開院10周年記念式典を挙行了しました。全国初となる掛川市と袋井市の2つの市立病院の統合によって誕生した当院が、中東遠地域の医療を守る基幹病院として10年目を迎えることができたのは、地域の皆さまをはじめ、地域の医療機関や関係機関、大学の皆さまのご協力のおかげです。この場を借りて厚くお礼申し上げます。

さて、当院は、令和5年4月に「地域がん診療連携拠点病院」に指定されました。これは、当院のこれまでのがん診療に関する様々な取り組みが評価された結果です。当院が地域がん診療連携拠点病院の指定を目指した目的の1つは、中東遠地域の方が「がん」治療を、住み慣れたこの地域で受けることができるようにすることにあります。これまでこの地域の方は、がん治療のために中東遠地域以外の遠くの病院に通院、入院しなければならないことが多く、これは患者さまご本人にも、サポートされるご家族やパートナーの方にも大きな負担であったと思われます。今後は、既に地域がん診療連携拠点病院に指定されている磐田市立総合病院をはじめ、中東遠地域の各医療機関と連携して、この地域の皆さまが、がんと診断されたその日から、住み慣れたこの地域でより良いがん治療やサポートを受けることができるよう努めてまいります。

新型コロナウイルス感染症が5類となった後も、インフルエンザが流行するなど感染症への対策は今後も続いていきます。当院はコロナ禍を経験して、病院内にとどまらず外に出て人や組織と繋がることで、不可能に思えることが可能になることを実感しました。令和4年に運行を開始したドクターカー事業もその一つです。昨年10月からは、緩和ケア病床の運用をスタートさせ、今後は在宅医療と連携した事業の展開も検討しています。これからも外へ活動を広げ、職員一丸となって地域医療を支えるという使命感を持ち、地域の皆さまの命と健康のために全力を尽くしてまいります。

この新しい年が皆さまにとって良き年となりますよう心より祈念いたしまして、年頭の挨拶とさせていただきます。



企業長・院長 宮地 正彦

当院の放射線治療について

～安全で正確な治療実施のために～

診療放射線室

やま ぎき すみ と

山崎 澄人 (診療放射線技師・医学物理士)

診療放射線室

くろ だ さ ゆみ

黒田 紗弓 (診療放射線技師・医学物理士)

放射線治療について

放射線治療は、手術、薬物療法と並ぶがん治療の3大治療法の1つです。当院は放射線を身体の外から患部へあてる方法(外照射)で治療を行っています。外科的手術などに比べて、体への負担が少なく、かつ形態・機能の温存が可能であり、外来通院で、現状の生活を維持しながら治療ができます。

放射線治療の効果

一般的にがん細胞は、正常な細胞よりも急速に分裂(増殖・成長)すると言われています。放射線をがん細胞に当てることで、がん細胞の遺伝子やDNAを損傷させ、分裂を阻害し、その結果がん細胞を死滅させる効果が期待できます。一方で、正常組織の細胞は放射線照射後、時間が経つとある程度回復するのに対し、腫瘍(主にがん細胞)は回復しにくいので、損傷を低減させるために、1度にあてる放射線の量(線量)を少なくし、数回に分けて行う方法が一般的となっています。

放射線治療の流れ

まず、医師による診察を受けていただき、放射線治療の適応があるか判断し治療方針を決定します。次に、実際に放射線をあてる(照射)時と同じ姿勢でCTを撮影します。これは、腫瘍の位置や大きさ、形状を正確に把握するためです。撮影したCTの画像データを元に、どの方向からどれだけの放射線を照射するか治療計画を作成します。その後、作成された治療計画の検証を行い、計画通りの位置に線量が照射されているか確認をします。そして、放射線治療を開始し、実際に患者さまへ放射線を照射していきます。

治療計画

放射線治療で最も重要なものが、「治療計画」です。CTの画像データを元に治療計画を作成するための装置で、腫瘍の位置を特定し、放射線を照射する最適な角度や線量を決定するためにシミュレーションを行います。当院は腫瘍に対し多方向から放射線を集中させる定位放射線治療(SRT)や放射線の強さに強弱をつけ、正常組織に当てる線量を弱く、腫瘍に対して線量を強くさせる強度変調放射線治療(IMRT)などの高精度放射線治療も行っています。

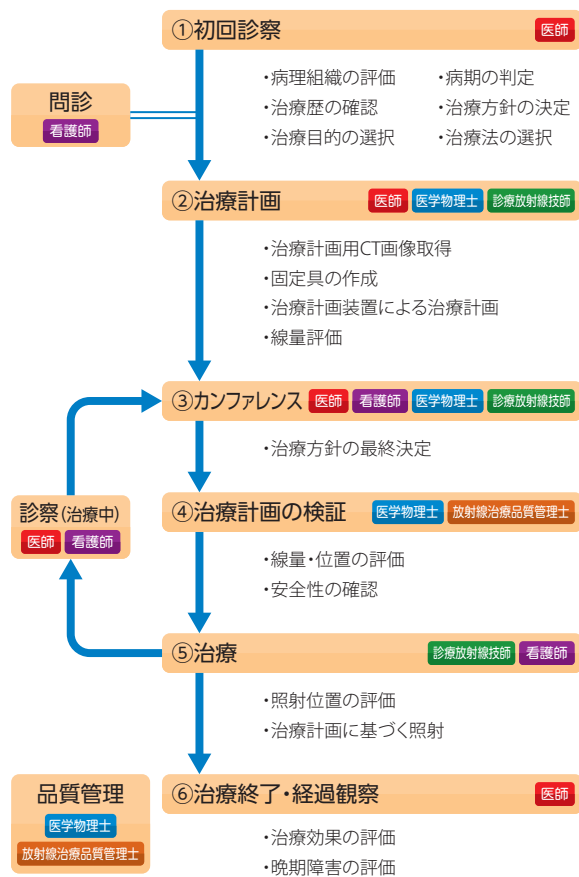
患者さまの体への負担や組織へのダメージがより少なくなることを特に意識し治療計画を立てています。

その後、作成した治療計画の計算線量と実際に線量計で測定した測定線量や位置精度が許容範囲内で一致するか確認し、安全性を担保します。



▲測定器による測定

放射線治療 外照射の流れ



乳がん患者さまへの術後照射について

乳がんのがん治療は、手術後に放射線治療を行う術後放射線療法が標準的治療です。放射線治療では肌につけたマークを基準に体の傾きやねじれ等を補正し位置を合せていきます。当院では、照射を行う際に



▲乳がん術後放射線療法

肌の露出が少なくなるよう ケープをご用意しています。また、可能な限り女性技師が対応できるよう、人員確保にも取り組んでいます。

患者さまのニーズに合わせたスケジュール管理

放射線治療のメリットは、外来通院で治療を行うことができることです。当院は働きながら放射線治療を受ける患者さまのニーズに対応するため、治療を行う時間を、就業前や就業後にするなど患者さまのご希望に合わせたスケジュール管理を行っています。ご要望の際はお気軽にお声かけください。

安全・安心な治療実施のために

①カンファレンス

週に1度、放射線治療に関わるスタッフ（医師、看護師、医学物理士、放射線治療品質管理士、診療放射線技師等）でカンファレンスを行い、放射線治療を開始する患者さまの治療方針や治療計画に関して情報共有を図っています。



▲放射線治療カンファレンスの様子

②医学物理士

当院には医学物理士という放射線を用いた医療を適切に実施するための専門家が2名在籍しています。医師と連携を取り、治療計画の作成、検証を行い、放射線治療品質管理士や診療放射線技師と協力し、治療装置の品質管理・

保証を行います。医学物理士は、高精度化する放射線治療の精度を担保する役割を担っています。

③第三者機関による評価

当院では、2016年から公益財団法人医用原子力技術研究振興財団の治療用出力測定第三者評価を受けています。治療装置が正確かつ安全に放射線を発生させ、患者さまに適切な線量を照射できているかを検証します。患者さまの安全性を確保し、治療をより効果的にするために重要な評価であり、今後も継続して評価を受ける予定です。

さいごに

当院ホームページで放射線治療のより詳しい情報を掲載しています。ぜひご覧ください。



▲放射線治療スタッフ

看護部通信

がん患者さまの生活と治療の両立をめざした放射線治療の看護について

放射線治療はがんの根治、手術前の補助的治療、再発予防や痛みなどの緩和を目的としています。当院でも年々治療される患者さまが増加しています。放射線治療は、患者さまの身体への負担や影響の少ない治療であることから、当院では約7割の方が外来通院で治療を行っています。

しかし放射線と聞くと「被ばくする」とか、「何となく怖い」など、目に見えない放射線に対する不安を抱くことがあります。また、「治療はどうやって行のか」、「副作用があるのか」、「費用はどのくらいかかるのか」と心配される方もいらっしゃいます。これら漠然とした不安を緩和し安心して治療を続けられるようにするため、放射線治療室の看護師は、治療開始前から治療後まで全体を通して患者さまに寄り添ったサポートができるよう心がけています。患者さまから一番多い相談内容は「副作用」や治療中の「痛みや不快感」です。患者さまが疑問や心配だと感じることがあれば、都度相談を受けお話をうかがっています。相談された内容は、放射線治療のカンファレンス等で治療に関わるスタッフと情報を共有し、患者さまが安心して治療に臨めるよう、チームで適切に対応しています。患者さまの「自分らしい」生活を大切に、治療が完遂できるよう継続支援していきます。

現在、第2外来の看護師1名が、より専門的な知識を習得して患者さまへの適切な支援を行うため、静岡県立がんセンターで放射線治療に関する研修を受けています。今後も患者さまや、ご家族・パートナーの治療や疾患に対する様々な思いに寄り添い、少しでも苦痛や不安が軽減できるよう、多職種と連携を図りながら治療のお手伝いをさせていただきます。

第2外来師長 鈴木智子
第2外来看護師 中山典子



▲患者さまからお話をうかがう看護師

「開院10周年記念コンサート」を開催します

開院10周年を記念して、「開院10周年記念コンサート～10周年、そして未来へ」を開催します。

今回は開院10周年記念として、病院職員だけでなく、地域の方にも演奏を披露していただく予定です。

観覧は無料です。素敵な音楽を聴いて、癒しのひとときを過ごしませんか。

※感染症等の状況により、やむを得ず中止となる場合があります。

日時 令和6年1月24日(水) 午後4時30分～(1時間程度)

場所 当院1階ホスピタルモール

- 注意事項**
- ①不織布マスクの着用と、入口での検温、手指消毒にご協力をお願いします。
 - ②観覧は決められた場所で行います。(入院患者様と一般の方の観覧場所を分けます)
 - ③演奏中は静かに、演奏終了後はあたたかい拍手をお願いします。

開院10周年記念コンサート ～10周年、そして未来へ～



RECRUIT

当院では職員を募集しています

現在募集中の職種

正規職員

病院救命士、事務職員、
看護師(経験者)、薬剤師、
作業療法士(経験者)、
言語聴覚士



▲薬剤師



▲看護師

【採用担当者から】

医療のプロフェッショナルとして共に高みを目指す、そんな方からの応募をお待ちしています。

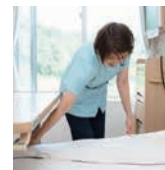
働き方改革を推進しており、また育児休業制度等の福利厚生が充実しています。長く安心して働ける環境が整っています。

会計年度任用職員 (非常勤職員)

薬剤師、看護師、視能訓練士、
メディカルエイド、
医師事務作業補助者、事務職員



▲医師事務作業補助者



▲メディカルエイド

【医師事務作業補助者(MS)とは?】

医師が行う業務のうち、事務的な業務をサポートする職種です。医師の指示と確認のもとに、これまで医師が行っていた、電子カルテへの入力補助、検査や診察のオーダー入力補助、診断書や証明書といった文書の下書き作成などを行っています。



健康かるた優秀作品決定

開院10周年記念事業として制作した『みんなでつくる 健康かるた』読み句の優秀作品10点が当院職員の投票により決定しました。

今回、掛川市、袋井市在住の方をはじめ、県外の方までたくさんの方にご応募いただきました。ありがとうございました。

優秀作品は
こちらから▶



11月の 診療実績

1日あたりの患者数	
入院	369人
外来	1,154人
紹介率	92.0%
逆紹介率	105.8%
病床利用率	73.7%
平均在院日数	8.8日
手術件数	507件
救命救急センター受診者数	1,310人
救急搬送件数	560人

病院だより「きんもくせい」は、中東遠総合医療センター、掛川・袋井両市役所及び一部の市内公共施設にて無料で配布しております。

ホームページ <https://www.chutoen-hp.shizuoka.jp/>

過去の病院だよりをホームページでご覧いただけます。 [中東遠](#) [検索](#)

スマートフォン・タブレットからアクセスする際には QR コードをご利用ください



〒436-8555
掛川市菖蒲ヶ池1番地の1

TEL 0537-21-5555

